

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	住宅改修支援事業				担当部	健康福祉部				
	会計区分	一般会計		事業類型	一般事業		担当課	介護保険課			
	事業期間	平成12年度以前		～	平成31年度以降		担当係	給付指導係			
	総合計画 新基本計画	施策等	2 保健・福祉		8 高齢者福祉		2 高齢者の在宅生活を支援します				
			重点事業		実施計画事業						
	予算区分	款	3	項	2	目	1	大	3	中	3
	根拠法令・個別計画	小牧市高齢者等住宅改修費助成金交付要綱・小牧市リフォームヘルパー派遣実施要綱									
	目的	何・誰を対象に	市民税非課税世帯に属する虚弱な高齢者								
		どの様な状態にするのか	適正な住宅改修を行い、その費用を助成することで、自立した在宅生活が継続できるようにする。								
	内容(手段) 目的達成のためにどのような事業を実施したか	<p>市民税非課税世帯に属する65歳以上の虚弱な高齢者で住宅改修を必要とされる方から申請されたものについて、助成対象限度額の9割を住宅の改修費用として支援。 【助成対象限度額】 ・虚弱高齢者 200,000円 ・介護保険(要支援・要介護)認定者 100,000円</p> <p>福祉、保健医療関係職種の専門家が住宅改修について助言し、適正な住宅改修を支援する。</p> <p>「高齢者福祉ガイドブック」により周知を図る。 職員が申請の内容を確認後、受付をし、現地調査を経て、審査結果を起案。 当該審査結果により、住宅改修費を助成する。</p> <p>◆27年度直接経費の内訳 高齢者等住宅改修費助成金(460千円) リフォームヘルパー謝礼 (26千円)</p> <p>◆28年度直接経費の内訳 高齢者等住宅改修費助成金(1,800千円) リフォームヘルパー謝礼 (108千円)</p>									
受益者負担	有 助成対象限度額の1割										

コスト	費用			単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額
		直接経費		千円	439	713	486	1,908
費用	正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	
		人件費	千円	550	550	550	550	
	その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
		人件費	千円	0	0	0	0	
	費用合計	千円	989	1,263	1,036	2,458		
	対前年比	%		127.7	82.0	237.2		
財源	一般財源	千円	989	1,263	1,036	2,458		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	績	住宅改修助成	件	目標	—	—	—
実績				4	6	5	
			目標				
			実績				
業	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	住宅改修助成	件	目標	—	—	—	—
			実績	4	6	5	
			目標				
実績							

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	非課税世帯の虚弱な高齢者に対する住宅改修を支援し、高齢者の自立した在宅での生活を継続させることができた。				
		事業実施における課題	対象を市民税非課税世帯の虚弱な高齢者としているため、制度の趣旨を踏まえ、介護保険の住宅改修との調整など適切な事業の管理が必要である。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	市民税非課税世帯に属する虚弱な65歳以上の高齢者が在宅で自立した生活を送るための住宅改修を支援できなくなる。また、住宅改修への相談・助言を希望する者への対応ができなくなる。				
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	「高齢者福祉ガイドブック」により周知をし、要介護認定の有無に関わらずお知らせをするとともに、地域包括支援センターなど関係事業所に対して周知していく。				
	平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	現状を維持することで、低所得者の負担軽減を図り、適正な住宅改修を行うことができ、高齢者が自立した在宅での生活を送ることができる。					
	29年度以降の改善案	「高齢者福祉ガイドブック」により周知をし、要介護認定の有無に関わらずお知らせをするとともに、地域包括支援センターなど関係事業所に対して周知していく。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。